



松ヶ崎だより

京都市左京区松ヶ崎堀町 40
TEL.075(781)3380／FAX.075(781)3252
<http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=108201>

家

学校評価特集号

令和2年 10月26日
京都市立松ヶ崎小学校
校長 土井 則夫



より良い松ヶ崎小学校を目指して

学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。このアンケートは学校評価の一環として、子どもアンケートとともに実施しています。本号では、アンケートの結果と、結果をもとにした自己評価についてダイジェストでお伝えします。

＜アンケート調査の概要＞

対象	調査期間	対象数	集計数
子ども	7月6日（月）～10日（金）	318名	313名（98.4%）
保護者	7月6日（月）～14日（火）	318名	309名（97.1%）

＜アンケート調査の特徴＞

下記の2点について、昨年度から引き続き調査を行いました。

- 協働的に問題解決していく力を育むうえで必要な、学習の基盤となるルールづくりや人間関係づくりの取組について問う項目
- 松ヶ崎小学校として大切にしていく習慣として、「あいさつ」と「はきもの」に関する取組について問う項目

＜アンケートをもとにした自己評価の流れについて＞

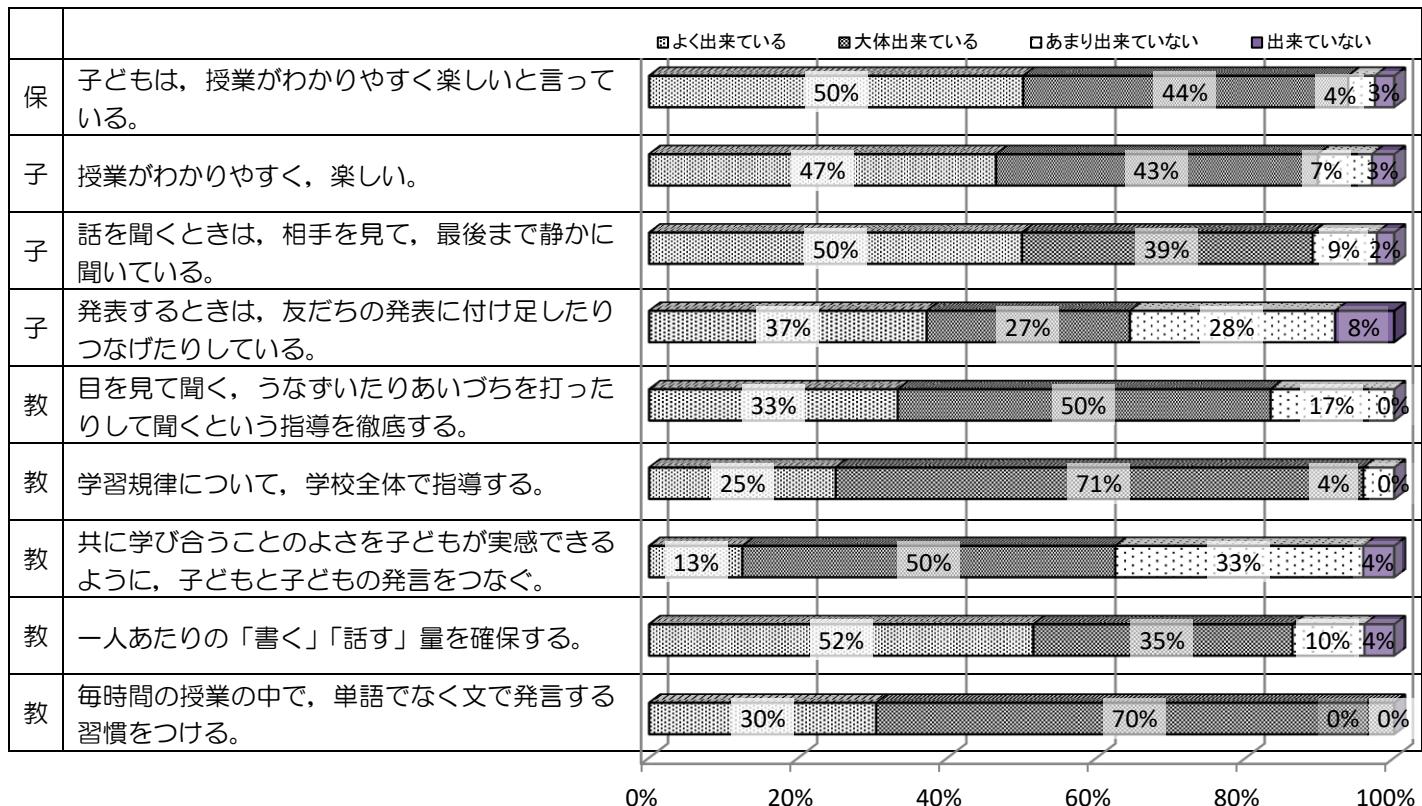
- 「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成 という3つの視点で教職員にもアンケート調査を実施（7月）
- アンケートの結果から課題を明らかにし、課題の解決に向けた取組を教職員で話し合うための研修会を実施（7月）
- 自己評価の中身について、学校運営協議会に説明。学校運営協議会から、自己評価に対する意見と評価（9月30日）
- 結果と課題、課題の解決に向けた取組をまとめた「子ども・保護者・教職員アンケートをもとにした自己評価」を作成（10月）

＜ダイジェスト版の見方＞

保護者・子ども・教職員アンケートの結果を、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成という3つの視点に分けて、グラフで示しています。紙面の関係上、保護者や子どもアンケート結果のすべてをのせることができません。保護者アンケート、子どもアンケートの結果については、ホームページ上に公表する予定です。また、研修会を経て作成した「子ども・保護者・教職員アンケートをもとにした自己評価」についても、ホームページ上に公表予定です。

学校運営協議会からの評価は、本日配布のコミュニティ・ニュースに掲載します。

「確かな学力」の育成に向けて



<アンケートの結果 (・) 課題 (●) 課題の解決に向けた取組 (□) >

学び合いの基盤となる学習規律

- 「学校のきまり」を子どもと指導者が互いに意識できている。(年度当初の確認事項を教室掲示)
- 「話す、聞く」ことについてのルールについて意識して取り組めている。
- チャイムを守って行動する意識が身についている。
- 学習の準備は学校でも家庭でも意識が高くもてている。
- 一過性にせず、一年間通して取り組み続けていく。
- 学校でやると決めたことは最後までやり切る。やる気と意識が大切。

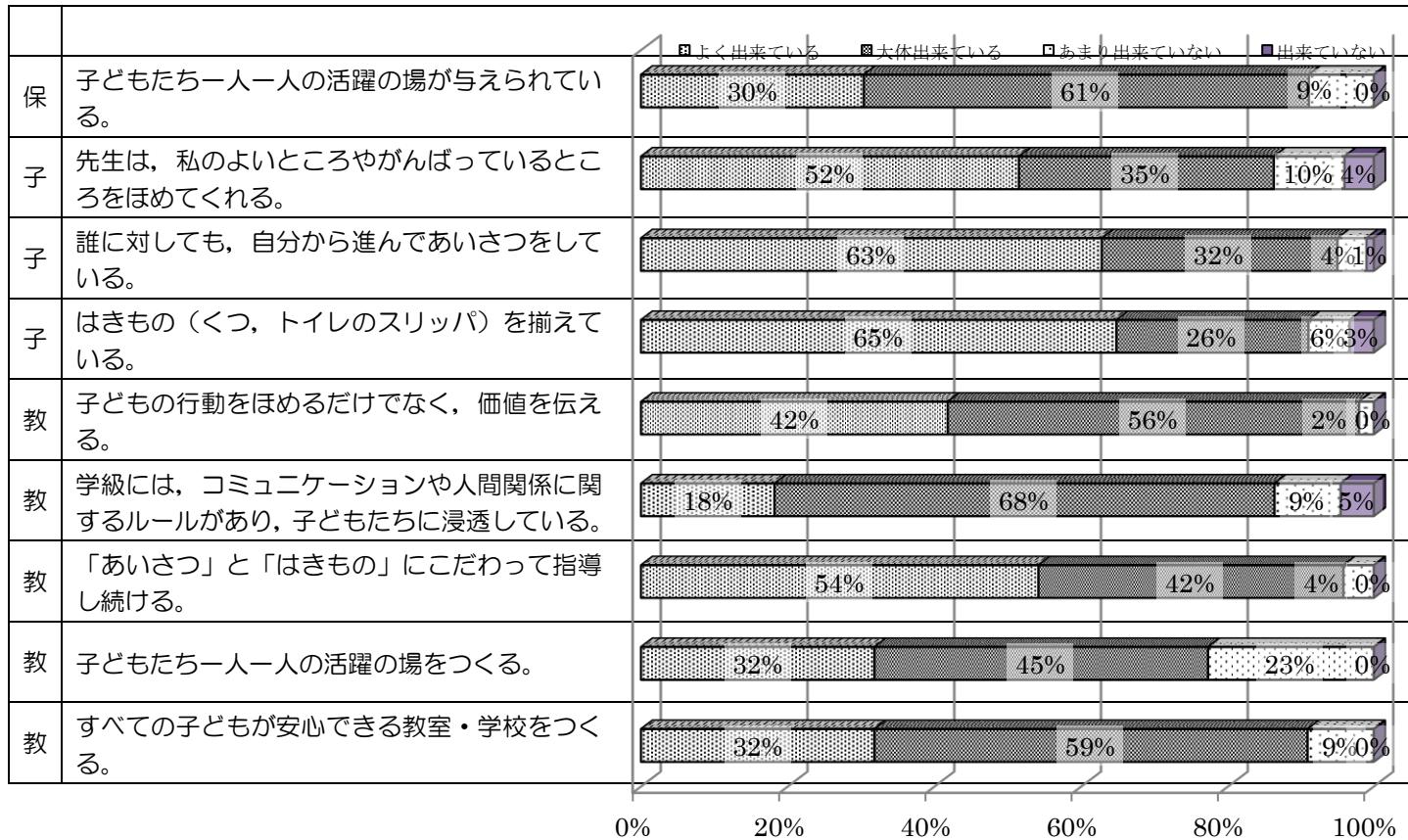
2. 子ども同士の発言がつながる授業

- 子どもが発表をつなげていく授業が進められていない。授業改善にもっと取り組んでいく必要がある。
- 子どもも教職員も、授業中に「子ども同士の発言のつながりが弱い」と感じている。どのようにつなげていくのか、というイメージがもてていない。
- 研究を中心に「子どもと子どもの発言をつなぐ」授業を構築していく。
- 研究授業で発表をつなげる具体的な姿を示す。
- 「発表につけたし、つなげる」授業の進め方を実践する。

3. 「わかる」「楽しい」授業

- 授業がわかる、楽しいと感じている割合は大きいと捉えられるものの、休校期間のこともあり実情はまだわからない。わからない、楽しくないと感じている子にしっかりと届く授業を行っていく必要がある。
- 教職員同士のコミュニケーションをしっかりととり、「わかる」「楽しい」授業を目指し、若手もベテランも成長できるようにしていく。(研究、若手授業研修)

「豊かな心」の育成に向けて



<アンケートの結果 (・) 課題 (●) 課題の解決に向けた取組 (□) >

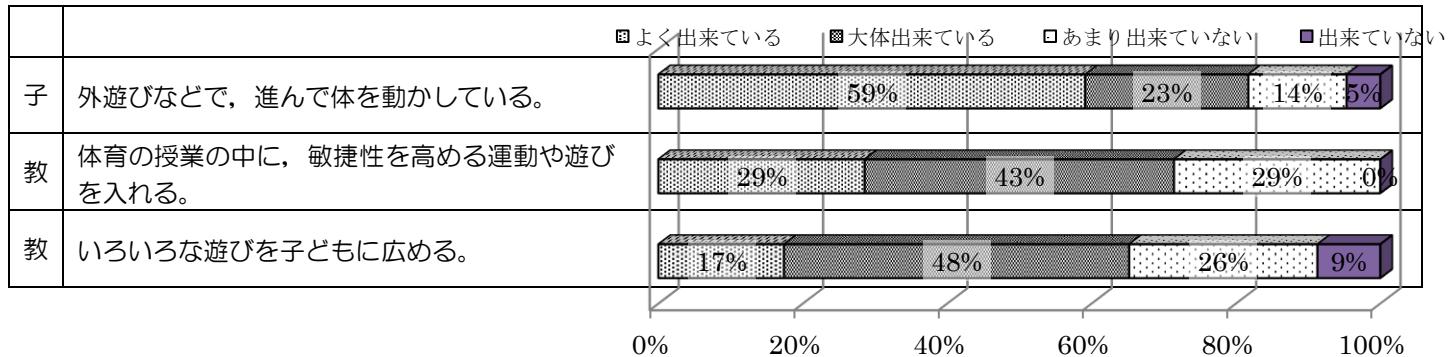
1. 「あいさつ」「はきもの」

- ・ 前年度からの取組により、くつばこの靴はとてもきれいに揃うようになった。
- トイレのスリッパは乱れていることが多い。公共の物の扱い方の指導が必要。
- 教職員に対しては進んであいさつすることができている。
- 子ども同士のあいさつがまだ十分ではない。
- くつばこの靴だけでなく、他の場所でもはきものが揃えられるよう声かけを継続していく。
- 教職員から積極的にあいさつを行い、子どもたちの自発的なあいさつをほめ続けることによって価値づけをしていくようにする。

2. 子どもの行動への価値づけ

- ・ 教職員が子どものがんばりやよさを認める意識をもち、ほめることを続けていくことで、学習への意欲が高まっている。コロナ禍での教職員の危機感が、子どもたちの接し方に変化をもたらしたのかもしれない。
- 一人一人の活躍の場を作り、誰もが大切にされる学級づくりをしていくという点でまだ課題が見られる。
- アンケート実施時点は、学校再開1か月経過した頃なので、子ども達の意欲が高く示されているのではないか。
- 休校によって見えた学校の可能性を見つめ直し、学校だからできる事の価値づけをしていく。
- 子ども達、保護者、地域と信頼関係を築き、安心して登校できる学校にしていく。

「健やかな体」の育成に向けて



<アンケートの結果 (・) 課題 (●) 課題の解決に向けた取組 (□) >

- 休校期間中に生活リズムが乱れ、夜更かし、寝坊が多くなった。
- 外で遊べる時間が制限され、子ども達の体力の低下につながっている。
- 教師も一緒になって、体を積極的に動かす遊びをして、子ども達に紹介していく。
- 委員会から体を動かす遊びの提案を行っていく。

自由記述から

ご多用の中、自由記述欄にもご意見をいただき、本当にありがとうございました。いくつか、紹介します。

休校・学校再開について

休校期間中の家庭訪問へのお礼を多数いただきました。学校再開後に子ども達の生活が休校中より落ち着いてきていることを喜ぶ声が多く寄せられました。また、参観日の設定やオンラインでの授業の整備を進めていくことを望む声も多く見られました。制限のある中での学校教育活動への応援のメッセージも多数いただきました。

学校行事について

行事の削減が多くなりましたが、運動会や学習発表会は代替として何かをしてもらいたいという声が多くありました。行事が例年通りでなくとも目標を子ども達がもてるように学校での指導を願うという意見もいただきました。

学級通信やホームページ、メール配信について

参観が行えない中、学校の様子を知るのに学級通信やホームページが役立っているという声、メール配信をきちんとタイムリーにしてもらいたいという声をいただきました。

日々の学習について

宿題の量を一定にしてほしい、授業が楽しいと言っている、勉強だけでなく学校で社会性・協調性を身につけられるようにしてほしいという声をいただきました。

アンケートについて

再開後の期間が短かったため、学校の中のことは評価しにくいという声をいただきました。次回のアンケートでは、より詳細な評価をいただけると思います。

ご意見ありがとうございます。紹介できなかったご意見も含めて、お答えできるものについては、個人懇談の場などでもお伝えしました。

ご家庭・地域の皆様におかれましては、新型コロナウィルス感染拡大防止という制限のある中での日々の教育活動を支えていただきありがとうございます。引き続き、ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願ひいたします。